

第3章

全体構想

1

まちづくりの将来像

2

まちづくりの基本的方針

3

将来都市構造

1 まちづくりの将来像

1-1 まちづくりの将来像

豊かな自然 歴史と文化に彩られた 果樹園交流のまち

【第2次甲州市総合計画】

本市は、甲府盆地の東部に位置し、山岳、扇状地といった個性ある地形及び水、緑等の豊かな自然を有し、それらの地形の上に成り立ってきた歴史的な街道や近代産業遺産、神社仏閣、史跡、文化財等が一体となり市街地及び集落につながるぶどうや桃等の果樹園が広がる特徴的な景観を形成しています。

これらの豊かな自然、環境、文化を引き続き守り育んでいくことにより、市民にとって安全かつ快適で健康的に暮らしやすく、より愛着がわき、誇りをもてるまちを目指すとともに、多くの人々が訪れたくなるまち、訪れる人々にとってより一層温かく魅力的なまちを目指します。

1-2 将来フレーム

本方針の基本的な前提となる将来人口は、「第2次甲州市総合計画」の将来人口を踏まえ、次のように設定します。

策定当初は平成37（令和7、2025）年の将来人口30,000人を維持する推計としていましたが、想定より早いペースで人口減少が進んでいる状況です。

【甲州市総人口の実績及び将来推計】

平成17（2005）年 （実績値）	平成27（2015）年 （実績値）	令和7（2025）年 （推計値）	令和12（2030）年 （推計値）
35,922人	31,671人	26,861人	24,403人

※推計値はコーホート法による推計（参考：第2次甲州市総合計画）

2 まちづくりの基本的方針

基本方針1：地域の特性を活かす賑わいのあるまちづくり

- ・地域資源を適正に管理しながら、広域的な連携を図り、活力に満ちた地域産業の振興を図ります。
- ・特色ある観光・交流資源も含め、地域特性を活かし、主に駅を拠点としたにぎわいのあるまちづくりを進めます。
- ・拠点間のネットワークを強化し、地域が連携・交流し、発展していくまちづくりを進めます。

基本方針2：持続可能なまちづくり

- ・人口減少等に対応するため、既存ストックを活かし効率的で持続可能なまちづくりを進めます。
- ・豊かな自然環境の保全と共生を進め、持続可能な循環型のまちづくりを進めます。

基本方針3：自然・歴史・文化・景観を守り活用する個性豊かなまちづくり

- ・地域特有の豊かな自然、歴史・文化資産、景観を活かし、魅力と活力あるまちづくりを推進し、次世代につなげます。
- ・長い年月の中で市民、地域が育んできた歴史・文化資産及び果樹園景観など地域の個性を活かし、魅力を高めるまちづくりを進めます。

基本方針4：災害に強く、安全で快適に暮らし続けることのできるまちづくり

- ・防災対策も含めた都市施設の整備及び土地利用をコントロールし、誰でも安心して快適に暮らせるまちづくりを進めます。
- ・防災に対する意識向上を積極的に行い、市民が相互に助け合える、災害に強いまちづくりを進めます。

基本方針5：協働によるまちづくり

- ・住む人も訪れる人もともに楽しみ、ふれあうことのできるまちづくりを進めます。
- ・誰もが参加でき、自主的に役割を担うまちづくりを進めます。
- ・市民と行政等、様々な立場の人が連携し、将来の本市を担う人材の育成やまちづくりに関する様々な活動を促進します。

3 将来都市構造

3-1 都市構造形成の基本的な考え方

コンパクト・プラス・ネットワーク型の構造

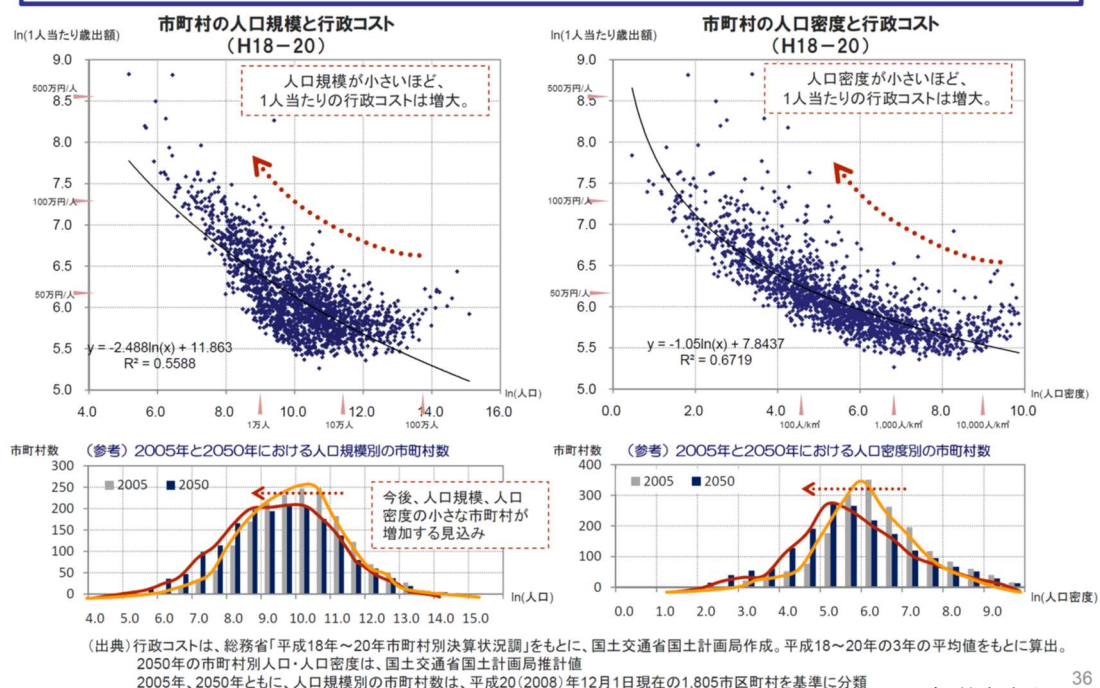
人口減少・少子高齢化による、地域の生産人口の減少による活力（生産力）の低下、住宅や店舗等の郊外立地が進行し市街地が拡散することによるインフラ整備及び低密度な市街地の形成は、都市運営コストの増加につながります（図①参照）。都市運営コストの適正化を図るためには、都市機能の集約による都市整備の効率化と環境への負荷軽減が求められます。

このため、居住や都市機能を集積し「密度の経済」を図ることにより、住民の生活利便性の維持・向上、生産性向上による地域経済の活性化、行政サービスの効率化等による行政コストの削減などの実現に向けたコンパクトな市街地や集落地の形成が求められます（図②参照）。また、地域住民が主体となり、各種団体、事業者及び公共団体と協力や役割分担をしながら、安心な暮らしに必要な生活機能を集約し、維持・活用を図る「小さな拠点」づくりを進めることも必要です（図③参照）。

しかし、1箇所に集中的に都市機能を集積することは、現実的ではありません。地域の特性に応じた複数の地域の拠点に都市施設の維持・集約を図り、拠点及び集落地等を連携・交流するネットワークを構築する「コンパクト・プラス・ネットワーク」型の都市構造の形成を目的とします。

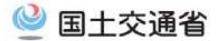
【図①】人口規模・密度が低下すると行政コストが増加

○人口規模や人口密度の低下は、1人当たりの行政コストを上昇させる。

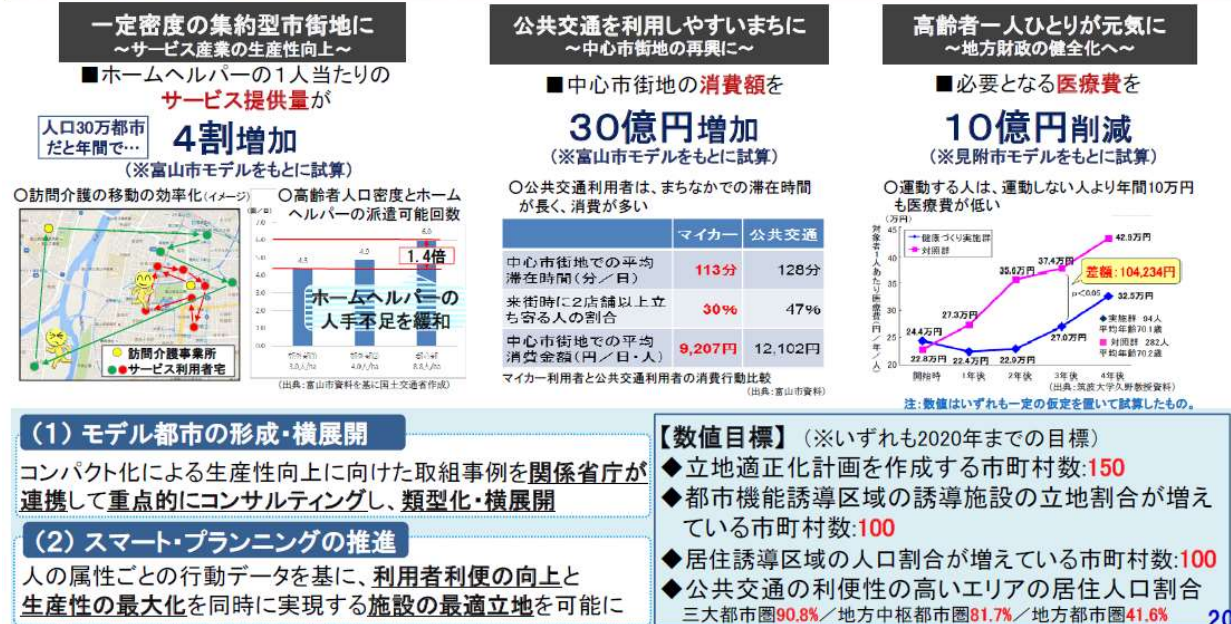


【図②】

コンパクト・プラス・ネットワーク ～密度の経済で生産性を向上～



- 経済活動の装置である都市のコンパクト化、密度アップ、公共交通の利便性向上により、訪問介護の移動時間激減や中心市街地での消費額増加を実現するなど、サービス産業の生産性を大幅に向上させる。
- その際、高齢者、子育て世帯等の行動をビッグデータで解析、ユーザー目線も備えたプランニング手法に一新し、施設の最適立地を実現する。



出典：国土交通省 平成 29 年 1 月 30 日 住宅団地再生連絡会議国土審議会資料

【図③】



出典：国土交通省「小さな拠点」づくりガイドブック（概要）

3-2 目標とする将来都市構造

コンパクトな市街地を形成し、豊かな自然、環境、文化を引き続き守り育んでいくために、市域の基盤となる「土地利用の基本エリア」を設定します。

その上で、地域毎の特性に応じ都市機能を集約した「拠点」を配置し、拠点同士を結ぶ「軸」とともにネットワークを形成します。

(1) 土地利用の基本エリア

① 森林里山エリア

県有林を主体とする山岳山林・民有林地帯・塩山地域の概ねフルーツラインより東～勝沼地域の丘陵地帯

水源かん養、環境保全等の多様な森林機能の保全、自然とふれあえる体験型レクリエーション機能の整備を図ります。

また、山間森林部と果樹園部の間をゆるやかにつなぐ地域として、景観、防災、自然とのふれあい、都市の気温の調節等、保全と活用を図ります。

② 里山果樹園エリア

塩山地域のフルーツラインより東～勝沼地域の丘陵地帯・大和地域の丘陵に位置する農地及び集落地域

なだらかな起伏に果樹園を有する里山地域として、自然、歴史・文化資産、景観、果樹、観光等の資源を活用する自然豊かなエリアを形成します。

③ 果樹園居住エリア

市の南西に位置する主要河川に挟まれた果樹園、集落地域

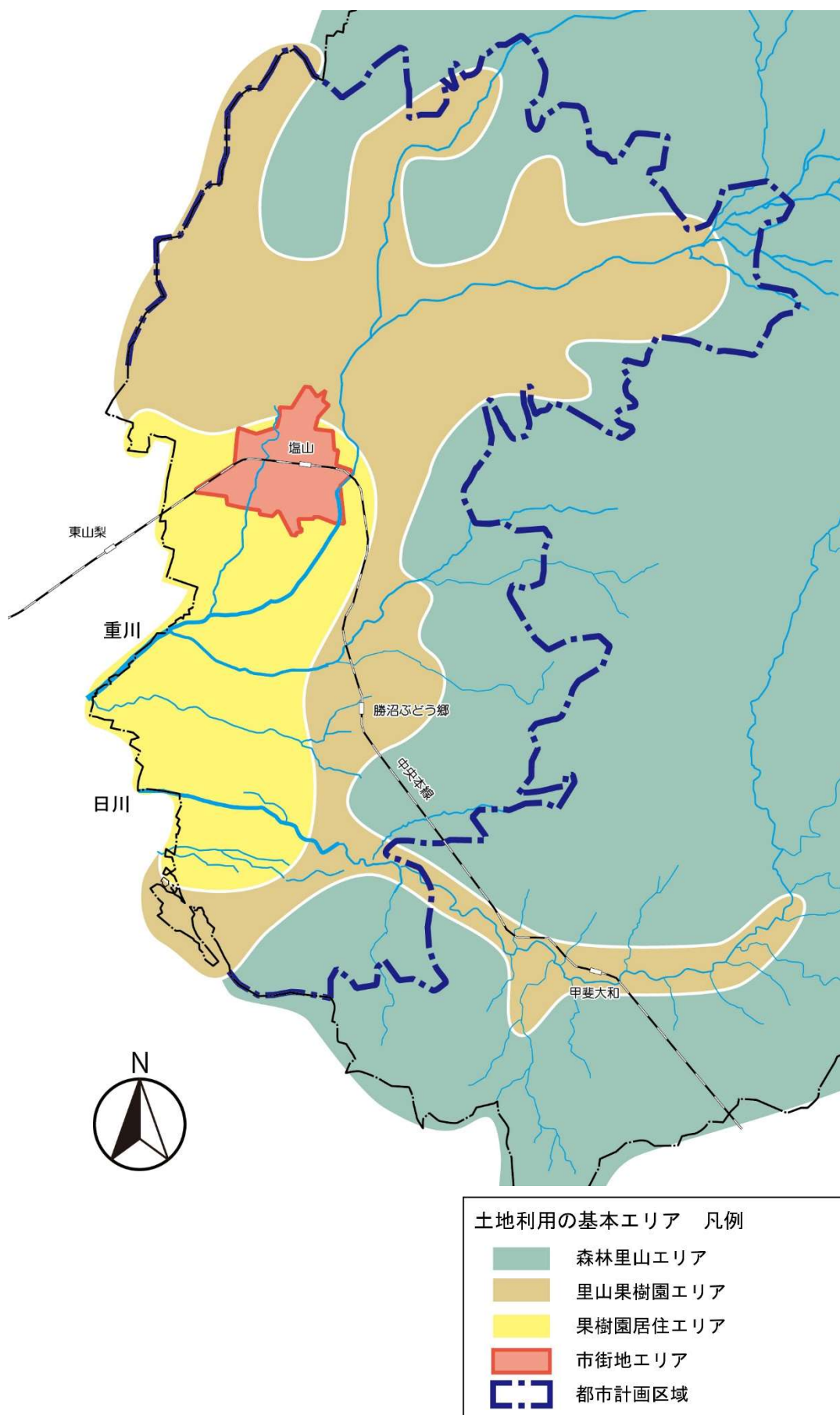
果樹園の保全を基本とした果樹園居住地域として、地域農業の振興、都市や集落コミュニティの維持と活性化、産業地等の計画的な規制・誘導の推進とともに、分散的な開発の抑制を図ります。

④ 市街地エリア（用途地域）

塩山地域の用途地域・都市拠点

用途地域内における都市機能の整備を図り、都市拠点については、適正な機能の立地誘導を図ります。また、用途地域内での空地や農地、遊休化している土地や建物などについては、良好な住環境としていくための利活用を進めます。

【土地利用の基本エリア】



(2) 拠点

①都市拠点

塩山地区中心市街地

利便性の高い都市拠点として、市全域を対象とする公共サービス、市民活動等の都市機能の再構築及びそれらの活動を支える質の高い都市基盤の整備及び活性化を図ります。

②市民生活拠点

塩山市民病院周辺地域

公共公益、商業サービス等の生活拠点として、公共交通等によるネットワークを維持し、新たな土地利用を検討するエリアとして適正な土地利用のコントロールと誘導を図ります。

③地区拠点

勝沼支所周辺・甲斐大和駅周辺

地域の特性に応じた、生活、活動及びコミュニティを支える、身近で基本的な商業機能や公共サービス機能の維持・充実を図り、暮らしを支える拠点とします。

④交流拠点

恵林寺・放光寺周辺、向嶽寺・塩山温泉周辺、甘草屋敷～塩山駅～於曽公園周辺、 勝沼ぶどうの丘・勝沼ぶどう郷駅周辺、大善寺周辺、道の駅甲斐大和周辺、上条集落等

各地域の自然や歴史・文化資産、景観、自然等の固有の特性を活かし、市民や来訪者の交流を促進する拠点とします。

(3) 軸

①都市連携軸

J R 中央本線・中央自動車道、国道、西関東連絡道路等

本市と他都市間を連絡・連携する軸として、機能の一層の強化を要請していきます。

②市民生活軸

地域間を結ぶ主な主要な道路

都市拠点、市民生活拠点及び地区拠点間を結ぶ軸として、沿道の果樹園の土地利用の保全を図り、拠点的な機能立地、景観及び環境の整備及び保全を進めます。

③観光交流軸

フルーツライン等

広域的に周遊する軸とし、各交流拠点との連絡、連携も支えます。また、地域の特性に応じ、車両交通、徒歩による利活用を図り、優れた景観及び環境の保全・整備を進めます。

3-3 将来都市構造図

【将来都市構造図】

